

群馬県立大泉高等学校 学校評価一覧表② (平成31年度(令和元年度)版)

(様式2)

羅 針 盤		達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○各科の特色ある教育課程に75%以上の生徒が満足している。 ○自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・愛校心の醸成には、生徒たちによる活動を通じて「あこがれ」となる存在が重要になってくる。部活動の合同練習や泉農フェアなどで生徒の様子を見てみると、教員と生徒の距離も良好に保たれており、望ましい状況にある。 ・第2回学校評議員会で、全国大会に出場した生徒の学習成果の発表を実際みても、生徒の主体性や学んでいることの社会的意義を適切に捉えたよい発表であった。今後もこのような学習活動を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に本格実施される学習指導要領では「カリキュラム・マネジメント」の概念が全面に掲げられていることを踏まえ、教育課程を俯瞰する視点から個々の科目・単元の役割を生徒たちが認識できるよう、指導の在り方を改善したい。 ・生徒が主体的に活動できる場を増やすとともに、「なぜそれをするのか」「そのことに取り組むことでどのような改善が見込まれるか」といった見通しを持たせる指導に着手したい。
		○生徒が講師となって「交流学习」や「一日体験学習」を実施することは大切な活動だと感じている生徒が85%以上である。 ○春・秋の泉農フェアや校内花いっぱい運動の意義を理解し75%以上の生徒が活発に活動している。 ○「課題研究」等の農業の専門科目や「総合的な学習の時間」を通して、社会の変化や課題を主体的に理解し、その解決策を考えるための学習活動に生徒の70%以上が積極的に取り組んでいる。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○選択や習熟度による少人数授業やグループ学習・実習等の学習指導に75%以上の生徒が満足している。 ○授業中の生徒指導により80%以上の生徒が学習ルールを守って学習している。 ○各科で取得できる資格と資格取得に関する指導に70%以上の生徒が満足している。 ○各科の資格取得率が平均して60%以上である。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年と比べ、授業規律に対する評価は生徒調査、教員調査とも改善傾向を示し、「落ち着いた」学習環境は確保できていると思われる。 ・一方、資格取得に関する満足度が低下傾向に見られるため、資格取得の意義を引き続き指導するとともに、そのための家庭学習への支援についても改善を図りたい。 ・思考力・判断力・表現力をどのように培うかという課題は、ステップアップサポート事業の重要な視点として認識しており、今後も授業改善を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律が改善傾向にあることは望ましく、今後も継続してほしい。 ・企業の人事担当をしていた経緯からすると、「時間を守る」といった基本的な生活習慣を指導することはとても重要な意味がある。引き続き、継続してほしい。 ・AIやインターネットといった新しい技術を教育活動の中で積極的に取り入れるべきではないか。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○各教科、科目の基礎的・基本的な内容について理解し、思考力、判断力、表現力などを70%以上の生徒が身に付けている。 ○各学期の定期試験の結果、学習成績不振者が10%以下である。	B	B	B		
	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	○生徒の状況や指導に関して情報交換する会議を月に2回以上実施している。 ○職員の組織的・継続的な指導により75%以上の生徒が生き生きと学校生活を送っている。 ○部活動や農業クラブの研究部活動に参加している生徒が60%以上である。 ○教育相談の体制が十分であり75%以上の生徒が職員を信頼して相談できると感じている。	B	A	B		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	○1日の遅刻者数が平均して6人以下である。 ○1日の欠席者数が平均して6人以下である。 ○心身の不調により保健室を訪れる生徒が平均して1日に8人以下である。 ○頭髪、服装検査の結果、改善の指導を受ける生徒が10%以下である。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議などを通じ、情報共有を図るよう心がけているが、学年とその他の分掌間で情報共有に齟齬が見られる場面があったので、「組織的対応」の在り方について、職員に問題提起をすることがあった。 ・通級による指導など、個別対応を必要とする生徒には教育相談部を中心に実施している。また、スクールカウンセラーを交えたケース会議を定期的に設定するなど、きめ細やかな対応を心がけた。 ・欠席や遅刻などの数値は昨年度と同水準であったが、精神的に教室に入室できないことを訴える生徒など、特定の生徒が数値を固定化する傾向がある。養護教諭や教育相談部、学年団等を通じて対応している。 ・「いじめ」に関する文部科学省の定義を教員間で共有し、生徒の申し出に誠実に対応するよう、情報共有を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインゲームの普及で睡眠障害や生徒指導上、問題のある行動がみられる中学生がいる。高校でも同様な生徒がいると思われるが、指導に特効薬はないので、職員と生徒とも良好な距離を保つなかで、適切に対応してほしい。 ・生徒の問題行動は「見えやすい」ものであったが、昨今はSNSにまつわるトラブルなど、「見えにくい」ものになっている。健康調査などの数値を公開するなどの方法は適切である。 ・生徒の情報交換について、時間割の中に物理的に話し合える機会を確実に設けることで、きちんと生徒に向き合える環境を整えることも有効である。
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○いじめの未然防止・早期発見のため、全生徒が真剣に取り組んでいる。 ○早期発見に努め、発見率が100%である。 ○いじめの発生防止に努め、いじめが発生した場合は適切な指導を行い、解消率が100%である。	A	B	B		
	7 計画的な指導を行っていますか。	○各学年の進路ガイダンスの実施時期や内容に75%以上の生徒が満足している。 ○進路実現のための二者面談等に70%以上の生徒が満足している。	A	B	B		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○進路実現に向けて「自己の生き方」や「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。 ○1年次に実施する就業体験学習について「将来の進路選択に役立つ」と考える生徒が70%以上である。 ○生徒の進路希望について80%以上の保護者が理解している。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、進路ガイダンスや二者面談に対する満足度、就業体験学習に関する学習効果に対する評価が低下傾向にある。行事の設定の在り方や学習効果の測定方法について、見直していく必要がある。 ・今年度、長期インターンシップの参加者は現れなかった。望ましい職業観・労働観を培う上で有効な体験であることを折に触れて指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の大手企業への就業者数が多いことに驚いている。地元の経済界に本校の教育活動が評価されていることを踏まえ、今後の進路指導に期待している。 ・農業関連産業への就業はどうなっているか。農業をめぐる社会環境の変化のなかで、本校の果たす役割も大きいので、引き続き努力してほしい。
	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○保護者や地域の方々を対象にした「学校公開」や「公開授業」の方法、内容、時期、日程等に75%以上の方々満足している。 ○PTA総会、学級懇談会、泉農フェア等の学校行事に50%以上の保護者が参加している。 ○学校のホームページを月4回以上更新し、生徒・保護者・地域に学校の活動等の情報発信を行う。	B	B	B		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。					<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会時に進路に関わる資金講座などを開設するなど、保護者の参加を促す行事の工夫に取り組み、参加率について若干の改善が見られた。 ・ホームページの更新頻度は月10回以上となり、閲覧数も伸びている。「掬泉通信」も定期的に発行し、地域への配付など情報公開に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に学校に顔を出すことでわかることも多い。引き続き、参加できるような努力を重ねてほしい。 ・ホームページの更新頻度や「掬泉通信」の発行など、情報発信に注力していることは、大変よい。今後も引き続き、情報発信に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の公開の開催頻度等は大きな変更はできないが、公開の方法や内容については引き続き改善を図りたい。 ・ホームページの更新や「掬泉通信」の発行等、今年度の取り組みを継続するなかで、地域に求められる学校の在り方を模索したい。